



目次

おもて

- ・舌下免疫療法
- ・アレルギー性鼻炎のレーザー治療

うら

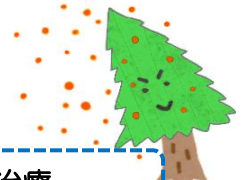
- ・劇症型溶連菌について
- ・食中毒について

舌下免疫療法とは・・・

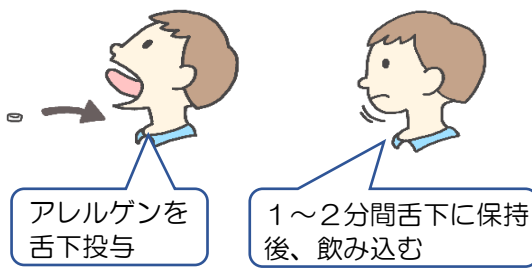
アレルギーの原因物質を繰り返し体内に吸収させることで体質改善（アレルギー反応の緩和）を図るアレルゲン治療法のひとつです。

2024年現在、次の症状の治療薬があります。

- スギ花粉によるアレルギー性鼻炎（薬品名「シダキュア」）
- ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎（薬品名「ミティキュア」および「アシテア」）



治療方法



アレルギーを舌下投与
1～2分間舌下に保持後、飲み込む

- ・初回投与は院内で行うが、以降の投与は自身で行うことができる

投与間隔

- ・1日1回、毎日投与する

投与期間

- ・3～5年

<舌下免疫療法のメリット>

- ・体質を根本から改善する。
- ・副作用が少ない。
- ・初回のみ医療機関で投与を行うが、2回目以降は自宅で行える治療である。
（1日1回自分のタイミングで服用できる）
- ・保険適用である。

<舌下免疫療法のデメリット>

- ・治療期間が3～5年と長い。
- ・副作用が起こる可能性がある。
→口の中のかゆみ、腫れ、喉のイガイガや違和感、耳のかゆみなど
- ※重大な副作用としてアナフィラキシーショックが引き起こされる恐れがあります。
→じんましん、嘔吐、吐き気、下痢、腹痛など

☆正しく舌下免疫療法を行った方の8割が、花粉症の症状改善を自覚しています。

☆スギ、ダニ両方の治療を、時期をずらしてスタートさせることで並行して行うことも可能です。

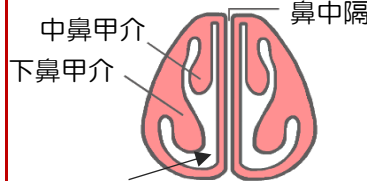
※全国的な薬剤不足の影響で、当院ではスギ花粉症の舌下免疫療法（シダキュア）の新規開始は当面の間見合わせております。

アレルギー性鼻炎のレーザー治療

レーザー焼灼で鼻粘膜表面を変性・収縮させることにより、鼻の詰まりの改善、くしゃみや鼻水などのアレルギー反応の軽減が期待される治療法です。

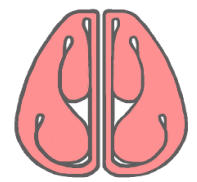
鼻粘膜を焼き切るレーザー光にはルビー、ヤグ、炭酸ガスなど種類があり、当院では炭酸ガスレーザーを使用しています。

正常な状態



<空気の通り道が広く開いた状態>

アレルギー性鼻炎の状態



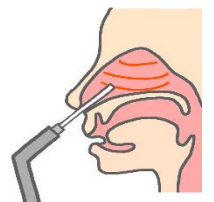
<アレルギーなどで鼻粘膜が腫脹。空気の通り道が狭くなり、鼻閉となる>

<こんな症状でお困りの方へ>

- ・くしゃみ、鼻水、鼻詰まりでお困りの方
- ・内服薬や点鼻薬ではあまり効果のない方
- ・鼻詰まりが原因となる睡眠障害（いびき・無呼吸）がある方・・・など

<当院でのレーザー治療の流れ>

- ①診察
 - ②検査・採血によるアレルギー検査
・副鼻腔のレントゲン撮影
- ※手術同意書・・・手術の概要等の記入された同意書を読んで検討。
手術が決まったら予約し、同意書は当日持参していただきます。



当院では水曜日の午前診療後、レーザー治療の手術を行っております。（完全予約制）レーザー治療について、ご希望の方、ご質問のある方、ぜひ診察室でご相談ください。



劇症型溶連菌について

致死率が3割にも上るといわれる危険な感染症が、過去最多のペースで急拡大しています。

「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」いわゆる「劇症型溶連菌」です。

どんな病気??

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、溶血性レンサ球菌（溶連菌）により引き起こされる感染症です。溶血性レンサ球菌には多くの種類があり、一般的には急性咽頭炎（喉の風邪）などを引き起こしますが、まれに通常細菌が存在しない組織（血液、筋肉、肺など）にレンサ球菌が侵入することで急激に症状が進行する重篤な疾患となることがあります。

※小児が多く罹患するA群溶血性レンサ球菌咽頭炎（一般的な溶連菌）とは区別され、発症は特に大人に多いのが特徴です。

どんな症状??

初期症状として、咽頭痛、腕や足の痛みや腫れ、発熱、血圧の低下、消化管症状（食欲不振、吐き気、嘔吐、下痢）などがみられます。

発病から症状の進行が急激かつ劇的で、発病後数十時間以内に筋肉周辺組織の壊死を起こしたり、血圧低下や多臓器不全からショック状態に陥り、場合によっては死に至ることも少なくありません。

感染経路は??

飛沫感染や接触感染の他、傷口や粘膜から侵入することによって病気を起こすともいわれていますが、詳しい感染経路は明らかになっていません。

治療法は??

適切な抗菌剤の迅速な投与、必要に応じて緊急手術による病巣の除去、集中治療室での全身の管理などをおこないます。

四肢の疼痛、腫脹、発熱など感染の徴候がみられる場合には、速やかに医療機関を受診するようにしましょう。

感染予防のポイントは??

有効なワクチンがないため、日頃から手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置といった基本的な感染症対策が重要です。



食中毒に気をつけよう!

食中毒とは、食中毒を起こすもととなる細菌やウイルス、有毒な物質が付いた食べ物を食べることによって、下痢や腹痛、発熱、吐き気などの症状が出る病気のことです。細菌による食中毒にかかる人が多く出るのは気温が高く細菌が育ちやすい6月から9月頃です。ウイルスによる食中毒は主に冬に流行します。また、キノコや魚のフグなどには自然に有毒な物質を含んでいるものがあり、そういったものを間違えて食べることによって食中毒になることもあります。



<食中毒を起こす主な細菌とその特徴>

○サルモネラ菌

十分に加熱していない卵・肉・魚などが原因
例：生卵、オムレツ、レバ刺し、牛肉のたたき
乾燥に強く、熱に弱い。食後6～48時間で吐き気、腹痛、下痢、発熱、頭痛など。

○黄色ブドウ球菌

加熱した後に手作業をする食べ物が原因
例：おにぎり、弁当、巻き寿司、調理パン
熱に強く一度毒素ができてしまうと加熱しても食中毒を防ぐことができない。食後30分～6時間で吐き気、腹痛など。

○腸炎ピブリオ菌

生の魚や貝などの魚介類が原因
例：刺身、寿司
塩分のあるところで増える菌で真水や熱に弱い。食後4～96時間で激しい下痢や腹痛など。

○カンピロバクター

十分に加熱されていない肉（特に鶏肉）や飲料水、生野菜などが原因
例：十分に加熱されていない焼き鳥、十分に洗っていない生野菜、井戸水や湧き水
乾燥に弱く加熱すれば菌は死滅する。食後2～7日で下痢、発熱、吐き気、腹痛、筋肉痛など。

○腸管出血性大腸菌（O157、O111など）

十分に加熱されていない肉、十分に洗われていない生野菜などが原因
例：レバ刺し、ハンバーグ、かわわれ大根、井戸水
十分に加熱することで食中毒を防げる。食後12～60時間で激しい腹痛、血が混ざった下痢。症状が重くなると死に至ることもある。

◎その他ウイルス性食中毒の種類として

例：ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス、A型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルスなど。

<食中毒予防の3原則>

- ◇細菌を食べ物に「つけない」
- ◇食べ物に付着した細菌を「増やさない」
- ◇食べ物や調理器具に付着した細菌を「やっつける」

